令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立宮前小学校 ）　　学校番号　７１

【様式】

目指す学校像	『笑顔あふれる宮前小』

重点目標	１　「真の学力」の育成…学校課題研修の充実　ICTを活用した学びの推進 ２　豊かな心、健やかな体づくり…あいさつの励行　事故防止に努め、安心・安全な教育環境の整備 ３　地域から信頼される学校づくり…家庭・地域と絆を深める学校づくりの推進　情報発信の充実 ４　教職員の資質向上…高学年教科担任制の実施　校内研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月９日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○R3 全国学力・学習状況調査における国語・算数の平均正答率は、全国・県平均と比較し国語はほぼ平均点程度であるが、算数はやや低い。 ○R3 市学習状況調査において、学びに向かう力に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ全体的に低い傾向がある。 〈課題〉 ○昨年度は、国語科を中心とした「ねばり強く学習に取り組む児童の育成」の研究に取り組んだ。２年目となる今年度は、研究教科を広げ、教科ごとに「宮前スタイル」の構築を目指す。 ○個別最適な学びの推進の核となる、タブレット型端末の活用についてさらなる研究が必要である。	・学校課題研修の充実と「宮前スタイル」の確立	・個別最適な学び（指導の個別化）を充実させ、児童に「できた」という実感をもたせる。 ・主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業改善に学校全体で取り組む。	①R4 年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を R3 年度の値より向上させることができたか。 ②各教科における「宮前スタイル」を全教職員が実践できたか。	①R4 全国学調「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、R3 と比較し肯定的な回答の割合は国語で 20pt 以上増加、算数はほぼ同じであった。R4 市学調では国語で約 19pt 増加、算数は約 3pt 減少した。 ②学校自己評価「日々の授業における「宮前スタイル」の実践」の質問項目において、94%の教職員が肯定的な回答をした。	B	・学校課題研修を通して、「宮前スタイル」が教職員に浸透してきた。次年度に予定されている研究発表会に向けて、「宮前スタイル」を発展させていく。	・教員の評価項目と考えると、具体的方策「できた」と方策の評価指標「好きだ」に齟齬が生じる。 ・達成状況のパーセンテージは90%以上が多いため、達成度Aとしてよいと考える。 ・次年度はタブレット端末の持ち帰り頻度を増やすことを評価項目に掲げてもよいのではないか。
		・学びの自律化に向けたタブレット型端末の活用とデジタル教材の研究	・校内研修を通じて、個の学習状況を正確に把握できるスキルの向上を図る。 ・個の状況に応じ、ドリルやドリルパーク、個別の補習等の実践を行う。	①R4 年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査　国語・算数の「知識・技能」の自校結果を、前回より向上させることができたか。 ②タブレット型端末やデジタル教材を活用した個別の学習・家庭学習の充実が図れたか。	①R4 全国学調における国語・算数の「知識・技能」の自校結果は、R3 とほぼ同じであった。R4 市学調では、R1 と比較し国語で約 4pt 減少、算数で約 2pt 増加した。 ②学校自己評価「タブレット型端末の活用」に関する質問項目において、教職員の 97%、児童の 95%、保護者の 86%が肯定的な回答をした。	A	・今年度は長期休業期間やオンライン授業の際に、タブレットの家庭への持ち帰りを実施することができた。次年度は持ち帰りの頻度を増やし、家庭におけるデジタル教材を活用した学習の充実にも取り組んでいく。	
2	〈現状〉 ○R3 学校評価における「元気に登校している」の質問には、９割以上の児童・保護者が肯定的な回答をしている。一方、さいたま市学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均よりやや低い。 ○R3 学校評価における「あいさつができる」の質問には、児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答が８割程度にとどまっている。 ○学校施設の老朽化や目立つが、定期的な安全点検の実施と速やかな修繕により、大きな事故は発生していない。 〈課題〉 ○通学路に狭い箇所が多く、交通量も多いため、児童の安全な登下校に課題がある。交通指導員の確保も重要である。 ○児童や保護者からの様々な相談や要望に迅速かつ誠実に対応できる組織づくりが求められる。	・気持ちのよいあいさつの励行	・各学年・学級におけるあいさつの励行に努める。 ・あいさつキャンペーンや集会など、特別活動の充実を図る。	①学校自己評価における「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R3 より増えたか。 ②さいたま市学習状況調査及び学校自己評価における「学校に行くのは楽しい（元気に登校している」の質問に肯定的な回答をする児童の割合が R3 より増えたか。	①学校自己評価「あいさつの励行」に関する質問項目において、肯定的な回答の割合は、R3 と比較し教職員・児童はほぼ同じ、保護者は増加、地域の方々は減少した。 ②「学校に行くのは楽しい（元気に登校している」の質問項目において、肯定的な回答をする児童の割合は、R3 と比較し市学調・学校自己評価ともに僅かに増加した。	B	・あいさつは本校の最重要課題である。特活部を中心に、継続してあいさつの励行に取り組んでいく。また、地域と連携しての挨拶活動も模索していきたい。	・「安心・安全」に関する取組が充実し、成果を上げているが、重点目標にある「健やかなからだづくり」の具体的方策が十分ではない。次年度は評価項目に掲げ、重点的に取り組んでもよいのではないか。 ・コロナ禍においても学級閉鎖も少なく、心身ともに健やかに過ごせたことを評価してもよいのではないか。 ・あいさつは引き続き、本校の重点課題と考えられる。学校はもちろん地域でも積極的にあいさつができるよう、地域の方々と協働してあいさつの励行に取り組んでいきたい。
		・児童の安全を守る登校指導と安全点検の改善	・月１回の安全点検・登校指導について、実施方法や点検項目の見直しを図る。 ・引き渡し訓練、一斉下校等の実施について、効果検証及び改善に向けた取組の充実を図る。	①学校自己評価における「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合が R3 より増えたか。 ②安全点検や登校指導の定期的な実施ができたか。	①学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合は R3 と比較し 20%以上増加した。 ②月１回の安全点検及び登校指導を計画どおり実施することができた。また、５月に一斉下校と引き渡し訓練を実施。避難訓練は各学期１回ずつ、計３回実施した。	A	・登下校時の児童の安全確保や不審者への対応は大きな課題である。安全指導の充実・徹底を図り、児童に「自分の身は自分で守る」意識をもたせるとともに、保護者、地域と連携しての見守り活動の一層の強化に取り組んでいく。	
3	〈現状〉 ○R3 さいたま市学習状況調査における「地域とのかかわり等」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均とほぼ同等である。 ○１年間の準備期間を経て、今年度、学校運営協議会が発足した。 ○PTA や SSN とは良好な協働関係を築くことができている。 〈課題〉 ○コロナ禍における PTA や SSN との連携の強化が喫緊の課題である。 ○本校の学区が北区・西区の両方にあることから、学校を核とした区を跨いでの連携を模索することが重要である。	・学校運営協議会において、目指す児童の姿や地域との連携の充実について共有	・学校運営協議会開催の際に、可能な範囲で、学校内を見ていただく機会を設ける。 ・学校での活動がわかるよう日々の教育活動を学校 HP に掲載する。	①学校自己評価における「児童の成長に関心が高まった」の質問に肯定的な回答する保護者・地域の方々の割合が８割以上となったか。 ②学校 HP の更新を週に３回以上できたか。	①学校自己評価「学校での児童の様子を伝えている」の質問項目において、保護者・地域の方々の 92%が肯定的な回答をした。 ②学校 HP「宮ちゃん・前ちゃんのブログ」において、学校の教育活動を掲載。ブログの更新回数は 1 月末現在 161 回。課業日に対する割合は 95%に達している。	A	・今年度は授業参観や学校公開、学校だより、HP などを通して、保護者や地域の方々に学校の教育活動に関心をもっていただくことができた。次年度も継続して、学校の取組や児童の活動を保護者・地域の方々に積極的に周知していく。	・教職員の 100%が肯定的回答をしていることから、達成度Aとしてよいかと考える。 ・児童の「地域とのかかわり等」への肯定的回答が大きく増加している。学校や地域の行事が元に戻りつつある中で、次年度以降も学校と地域とが連携し、子どもたちを育てていくことが重要である。
		・PTA・地域の行事への積極的参画	・各自治会との連携をとり、地域の行事について、可能な範囲で児童・保護者に周知を図り、参加を促す。 ・PTA 主催の催しについては、今年度に即した活動になるよう協議し、実施できる機会を昨年度より増やす。	①R4 年度さいたま市学習状況調査における「地域とのかかわり等」に肯定的な回答をする児童の割合が R3 より増えたか。 ②PTA や地域の行事に本校職員が積極的に関わることができたか。	①R4 年度さいたま市学習状況調査における「地域とのかかわり等」に肯定的な回答をした児童の割合は R3 と比較し約 8%増加した。 ②学校自己評価「PTA や地域の行事等に関わっている」の質問項目において、教職員の 100%が肯定的な回答をした。	A	・次年度は PTA や地域の行事により多くの教職員が参加できるよう、体制を整えていく。	
4	〈現状〉 ○高学年教科担任制の本格実施に伴い、各担任が担当教科における専門性を高めるため、日々教材研究に努めている。 ○「校内パワーアップ講座」を開催し、教員の指導力向上を図っている。 〈課題〉 ○学級担任の４割が５年経験未満、半数以上が１０年経験未満という職員構成となっており、経験の浅い教員の指導力向上が課題である。 ○教科担任制に伴い、専門教科の偏りが懸念される。	・教員の指導力と専門性を高める校内研修の充実	・高学年教科担任制の成果・課題について集約し、進める過程で発生する課題について随時、検討・対応する。 ・教職員の指導力と専門性を高めるため、校内パワーアップ講座を実施する。	①学校自己評価における「教育課程・学習指導」の質問項目において、肯定的な回答をする教職員の割合が R3 より増えたか。 ②年間を通して高学年教科担任制を円滑に実施できたか。	①学校自己評価「教育課程・学習指導」における教職員の肯定的な回答は、いずれも 9 割以上に達しているが、R3 と比較すると「よい」の回答の割合が減少し、「概ねよい」の割合が増えている傾向にある。 ②学校自己評価「高学年教科担任制は、年間を通して円滑に実施されている」の質問項目において、97%の教職員が肯定的な回答をした。	A	・学校自己評価「教育課程・学習指導」における「体力の向上に向けた取組」に関する項目の肯定的回答がやや低い。体育・体力向上部を中心に、年間を通して計画的に体力向上の取組を実施していく。 ・高学年教科担任制のさらなる充実に向けて、教職員の指導力向上に関する取組を強化していく。	・達成度Aでよいと考える。 ・さらにどうしていきたいか、ということを次年度の課題として、具体的方策を掲げればよい。 ・新体力テストの結果を踏まえ、低い項目を伸ばしていけるような学校全体としての意図的・計画的・継続的な取組が必要である。